

◆ *Furusato Obara Club*

Take Free [0円]

おはらのじかん

— 第9号 —

2016 Winter

おはらをひとつにつなぐ華

巻頭
特集

軽トラあんどんパレード

オバラあかりの華プロジェクト

[おはらのアーティスト・作家さん]

[小原のパワースポット]

[マンガイカくんキンちゃんの小原日記]

[小原いろいろ情報]



小原人集まれ! 「おばちゅう卒」
www.facebook.com/obachuu

おばちゅう
以外でもOK

軽トラあかりの華 プロジェクト

今年で5年目の
軽トラあんどんパレードが
名前も新たに11月3日に開催され、
小原の秋の夜を彩りました。
小原ふれいあい公園では小原の三地区打ち囃子や
女性ユニットの音楽ライブなど
イベントも同時開催、
あんどんの帰りを待ちました。



芸術賞 道慈観音

アイデア賞 ヤンチャッチャ

かわいいて賞 ごろにゃあこ

かっこいい賞 小原歌舞伎保存会

がんばって賞 TORIDE

福祉ビルラッ

和紙のふるさと

ファミリー賞 道遊会

きれいで賞 大平あんどんアートクラブ

ひっくりで賞 ミツ久保アト次田

おもしろいて賞 流されるしかし流されない

おはらっきー賞 419製作所

あかりのこぼな

四季桜ウオーク



オバラあかりの華

小原に咲く
「世界にたった
一つの花」



代表 竹内 正美

今年の「軽トラあんどんパレード」にはこの5年間で最も多い14台の軽トラが個性豊かな「和紙あんどんの華」を咲かせた。そして出発／ゴールの支所下のふれあい公園やパレードの回る道々の沿道では多くの子どもたちが、手に手に赤や黄や青のペンライトを振って迎えてくれた。

「軽トラあんどんパレード」は名古屋に住んでいた頃、豊田市と合併する前に豊田スタジアムで各町村が会するイベントを企画して欲しいという依頼があり、いろいろ回っているうちに小原が大好きになり、ここに住みたいと空き家を探しまくりに、乙ケ林に今の家を借りたところから始まる。

小原に住んでみると、「字」はあるけど「小原がない」というのが実感だった。字単位の自治はしっかりしているが、どうも小原地域全体を意識することはあまりない感じがした。外から「小原に住む」と入って来た僕としては、「小原」を感じなかった。そこで一年に二度でいいから小原をひとつの地域として結びつなくパレードをしよう。小原と言えば「和紙」、そしてこの家にもある「軽トラ」それをプラスして、小原の闇に灯すアンドンを作り、地域全体をパレードするアイデアが浮かんだ。

今年タイトルも新しく「オバラあかりの華」として、志をひとつにした小原住民が企画／運営までを手がけた。若い人たちが多く参加してくれた。さあ、来年目指し「あかりの華」をもっともつと咲かせよう。



軽トラあんどんパレードに参加して 道遊会



【ドライバー・近藤さん】
 今回初めてあんどんパレードに、参加させていただきました。あんどん製作もみんなが案を出し、いろいろな工夫をして、楽しく作ることが出来ました。当日、軽トラに乗車しコースを回っていると子どもたちが「消防車だ!!」と言ってくれてとても嬉しかったです。今後も機会があれば「道遊会」で参加したいと思います。開催日が祝日ではありましたが、土日開催だともう少し参加される方が増えるかと思いました。

【代表者・岡田さん】
 地元小学校区の有志で初めて参加することになりました。デザインはどうする？人が集まらない！材料が足りない！時間がない！など多くの苦労がありました。無事に完成し明かりを灯した時はホッとしました。

【ドライバー・瀧澤さん】
 四季桜まつりのオープニングに持ってきた事は正解だと思います。夜暗い中にあんどんを灯しながら走るのとても楽しかったです。問題点も特に何もありません。来年も参加ができるのであればまた参加したいです。スタッフの方々とあんどんパレードに関わった方々に深く感謝します。



『あかりのこばな』ワークショップ

あんどんスタッフ 高木友恵
 私も「あんどん」が作りたい！あんどんパレード見る度に思うのは、私だけではないと思います。でも、どうしてよいかわからない人も。また小原に住んでいて、小原和紙に触れることもない人も多いいのではないのでしょうか。
 ならと、ふれあいまつり、文化まつりでワークショップを開きました。小原和紙と、ペットボトルを使った、小さなあんどん「あかりのこばな」が出来ました。意外と子どもより、大人の方がはまっていたのが印象的でした。
 今回一番嬉しかったのは、あんどんパレードで回っていた時、お子さんが、おばあちゃんに「これ私が作ったの」と嬉しそうに話をしながら写真を撮っていたことです。
 また、来年、あんどんパレードに関わってくれる人が一人でも多く増えることを祈ります。



がない」というのか実感した。守単位のご治はしっかりしているが、どうも小原地域全体を意識することはあまりない感じがした。外から「小原に住む」と入って来た僕としては、「小原」を感じたかった。そこで一年一度でいいから小原をひとつの地域として結び

軽トラあんどん会場イベント



会場スタッフ 鈴木孝典
 軽トラあんどんが小原を回って帰ってきた時に、「おかえりなさい」と迎えたいという会長竹内さんの想いもあり、会場イベントを開催することになりました。

音楽というのは決まっていたのですが、内容や人選については決め手に欠けて、時間の迫るなかスタッフフミーティングで「この案が生まれました」。「小原の太鼓つて各地区違うようなんだけど、聴き比べたことないよね。」そんな話から企画が盛り上がり、小原の各地の打ち囃子を集めて、演奏するイベントを開催することになりました。

急なお願いでしたが参加していただいたのは、小原町、上仁木町、西細田町の三団体。曲は各地区とも雰囲気異なり、個性的でとても面白く、また、お子さん中心の演奏は微笑ましく会場が盛り上がりました。また、道志地区の若いママさんたちの音楽ユニット「YUKIKO with RS」も素敵な演奏で、地元ならではの手作り感のあるイベントとなりました。ご参加いただいた皆さん本当にありがとうございました。



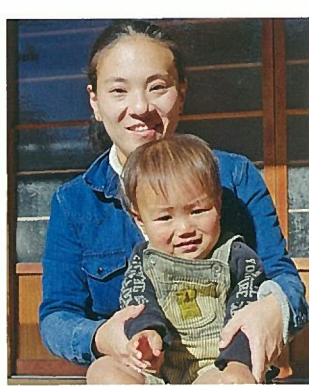
おぼらのアーティスト・作家さん

モチーフは小原の草花

彫金作家 OPALLIOS 景山真梨さん

前 洞町で旦那さんと2才の息子さんと古民家で暮らす、景山真梨さんは小原でも珍しい彫金のアーティスト作家さんだ。作品はすべて手作り。ピアス、ネックレス、指輪、ブレスレットと多彩で、素朴な風合いとエキゾチックな雰囲気がとても美しい。最近ではシンプルだけどトライバル(民族な雰囲気)もあり、普段使いでもできるものを作りたいと語る真梨さんに彫金をはじめたきっかけを伺った。20代、海外旅行が好きで世界中どこでも暮らせる技術は何かないかな?と思つた時、もともとアクセサリー好きだったこともあり、彫金に興味を持ったそうだ。彫金と言っても日本の工業的な彫金より、手作り自然と共にある彫金の原石のようなメキシコ彫金に惹かれ、メキシコで師匠を探した。気に入ったアクセサリーを売る露天商に声をかけ、師匠を探したそうだ。「今だったら怖いと思うけど若かったな」と語る真梨さん。その後も数度メキシコを訪れ技術習得し、現在では10年のキャリアになる。

若い頃は創るときに迷ったりしたが、子どもができてから、創作時間が限られた分、育児の間に考え一気にか創るようになり効率が良くなったそうだ。



現在はクラブ市に出店したり、グループでの展示会(東京都、419市(大坂)ではワークショップ、直接オーダーで仕事をすることが多い。中には近所さんが指輪サイズ直してと声をかけてくれることもあるそう。近年にはネットショップを本格始動したいと話す。これからの活動が楽しみです。



昔、永太郎に流れ星が落ち、その地に社を建て、その流星を祀り「星の宮」と呼ぶようになった。ご神体は隕石であるといわれている。昔、雷が2回ほど落ち、神社に雷が落ちる神が降りてきて縁起が良いとされる不思議なパワーのある神社です。



小原のパワースポット
満願成就! 流れ星の御神体 星の宮神社



おぼらいろいろ情報

おぼらいイベント

- 1月1日 元旦祭 蚕霊神社の祭礼
- 1月8日 小原地区 新成人を祝う会 (小原交流館)
- 1月17日~18日 小原地区 子ども和紙作品展 (和紙のあるさと)
- 1月20日午前11時~正午 カンゾカシキ



2月3日 節分 蚕霊神社の祭礼

カンゾカシキとは和紙作りの工程で、原料となる楮の皮を蒸し剥ぎ取る工程。参加自由(和紙のあるさと) 0565(65)2151

おぼら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク

www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

おぼちゅう以外人もOK!
小原の情報ページ 『おぼちゅう卒』是非登録してね!
www.facebook.com/obachuu

STAFF 小原白宇感 編集後記

お雛子の笛が会場に響き、軽トラに乗ったあかりの華が並んで出発していく。もっとゆっくり眺めていたかったな。寒い中会場に足を運んでくれた、たくさんの方々。感謝の気持ちでいっぱい。ありがとうございます。

今年でちょうど人生の半分が「おぼらのじかん」になりました。ふるさとを離れ子育てをし友人を得て。さあこのあと私はどんな小原暮らしをしてゆくのかなあ? 小原は元気で魅力ある里でいるのかなあ?楽しみです。

住めば都といいますが、山里ならではの美しい景色が、楽しみで人とのふれ合いにも温かさを感じながら、小原に住んでもう30年になります。深みのある小原をお伝えできたのであれば幸いです。

軽トラあんどんも、すっかりおぼらの年中行事として定着。山里をゆく光の列。これを、ISSから見たら?高度400kmで車列が1kmとすると、視角は0.14°。満月の視角が0.5°なので、けっこうわかるかな?

T.I (今号編集長) K.K M.T ika